

国名 :  カナダ ② 走行エリア : ウィスラー周辺 (中心山間部 ~ チャカムス湖へ)

走行エリアの基本情報 : 自転車専用道 (レーン) 又は コース (有・無) ウィスラーブラッコム マウンテンバイクパーク

参考 HP : <http://www.whistler.com/trails/bike/jellyroll-gumdrop> (ウィスラーオフィシャルセンターHP ※周辺案内)
<http://bike.whistlerblackcomb.com/> (ウィスラーブラッコム マウンテンバイクパーク HP ※有料施設)

レポート期日 : 2013 年 7 月現在 ※ 上記 HP には、ウィスラー周辺の MTB ルート地図 (英語) 有り

(※ 実際に現地で走行を体験した感想を基に記述しています。下記全ての内容は、変化している可能性もあります。ご了承ください。)

実際に走行した道路／コース状況 : 路面状況 (アスファルト舗装・ダート) 使用車 GIANT TRANCE26/29 & GLORY

ルート名 : ウィスラー周辺 MTB トレール ⇄ チャカムス湖 (95km) ・ マウンテンバイクパーク (5km) 実走距離 : 100 km

現地の人々の自転車とのつきあい方 :

※ レポート報告者 : OSCN 片山 昇

冬季オリンピックの舞台ともなり、スキーヤーにも世界的に有名なウィスラーは、夏の間は MTB やサイクリング等、様々なアウトドアスポーツのメッカとなる。バンクーバー都市部から、約 120km ・ ハイウェイで約 2 時間の距離にある。MTB やロード等の自転車で、短い夏の間朝~晩まで、サイクリング道路や公認の MTB ルート・ダウンヒルコースで、様々な自転車の楽しみ方を享受している。サイクリストに対するホスピタリティも高く、ホテル等のフロント後部の荷物室で、MTB 等を保管してくれる。自転車レンタル店も多い。

現在のサイクリング環境 (道路整備・コース整備・社会的認知度等) :

ウィスラー周辺部では、バンクーバー同様、シェア・ザ・トレイルのサインが道路にも描かれ、歩行者・ランナー・スケーター・自転車・クマ? が仲良く、無数とも思えるほどの舗装や未舗装のルートシェア合っている。無料で走行可能なよく整備された MTB ラインも初・中・上級ともに数多くあり、そのひとつひとつに楽しいルート名がつけられている。MTB ラインとはいえ、歩行者やランナーがいたら道を譲るのがマナーである。自転車が生活をエンジョイするための大切な 1 手段として地域社会で認知されているのを各所で感じる。現在、バンクーバーからウィスラーまで 125 km に及ぶサイクリング道 (Sea to Sky Trail) も整備中である。子どもたちが、楽しく安全に MTB ライドの基本を学べる無料の公園も点在し、一方で有料の中上級向けの MTB ダウンヒルコースまで、とてもひと夏では満喫しきれないほどの自転車天国が存在する。ただし全てのアウトドアスポーツ・生活で、ブラックベアー等の動物達の生活を最優先にすることをポリシーにしている。1990 年代後半から、MTB 等の自転車ルートを整備し、着々と文化を発達させてきたウィスラー、以後およそ 20 年で、夏の間全世界からサイクリストが集まる場所へと発展を遂げている。

※ウィスラーMTB の歴史 (英語) ⇒ <http://www.whistlerbikeguide.com/features/whistler-riding-short-history>

状況写真 : (※ 下記以外の状況写真・動画をご覧になりたい方は、左記ページへ⇒ 只今準備中 ※ フラッシュプレーヤー再生)



SHARE
THE TRAIL !

バンクーバー市内では、シェアザロードだったが、ウィスラーでは、シェアザトレイル! 道をみんなで見分ち合おうという一貫した姿勢が感じられる。右の看板の内容が素敵だ。「多目的利用道路・他の利用者を尊重し、注意して乗ろう!」





← →

ウィスラーのロストレイク（湖）自転車道でビーチまでアクセスでき、専用の置き場も用意されている。たくさんのサイクリストが、自転車で涼みに訪れていた。そのまま湖に飛び込んでも、乾燥しているの、ジャージの乾きもスピーディーだ。



←バンクーバーから、ウィスラーまで 125km つながる、Sea to Sky トレールの一部。道幅も充分で、針葉樹林の木の漏れ日の中を路面状態もとても走りやすいトレールがつらぬいている。この道を駆け抜けたら、初めて MTB に乗る人でも、その世界にはまりゆくのが容易に想像できるだろう。



←要所要所に、トレール番号やルート名のサインがある。ウィスラー全体のトレール MAP も設置されている。広大な森林地帯に広がる MTB や歩行者・ランナー向けのトレールは、1 日走っても、走っても、迷うことなく、飽きることなく、続いていく。あっという間に、50~60 km 走行してしまえる環境だ。ただし、自己責任の上で、装備は万全にして、無理はしない必要がある。日本のように自動販売機や、コンビニが随所にあるわけではないのだから。



→
もっとも忘れてはいけない部分として、ここはベアーカンントリーなのということ。現地の小学生の女の子とお母さんと話した。クマに対する日本人との意識の違いに驚かされる。この地では、「クマは隣人なのだ」。怖い存在ではない。まさに生活でも、様々な動植物たちとの「Share the Country!」の世界なのである。小1の女の子の言葉「いつも登校する時、クマさんも登校していくのを見るよ！」なるほど・・・





↑→

森の中から、残雪の残る頂きまで、開放感あふれる世界が広がっている。ウィスラー周辺には、大きな湖が点在し、7月の暖かいシーズンには、カヌーやボードセーリング等、静かなウォータースポーツが盛んだ。サイクリングルートも、大きな湖をつなぐ様に設定されている。森の中には、木で組まれたラダーのコースも有り、ドキドキするようなトレイルもある。自信が無ければ、降りて押せばよい。怪我をしてしまつては、素晴らしい景色を満喫出来なくなってしまう。



←↓

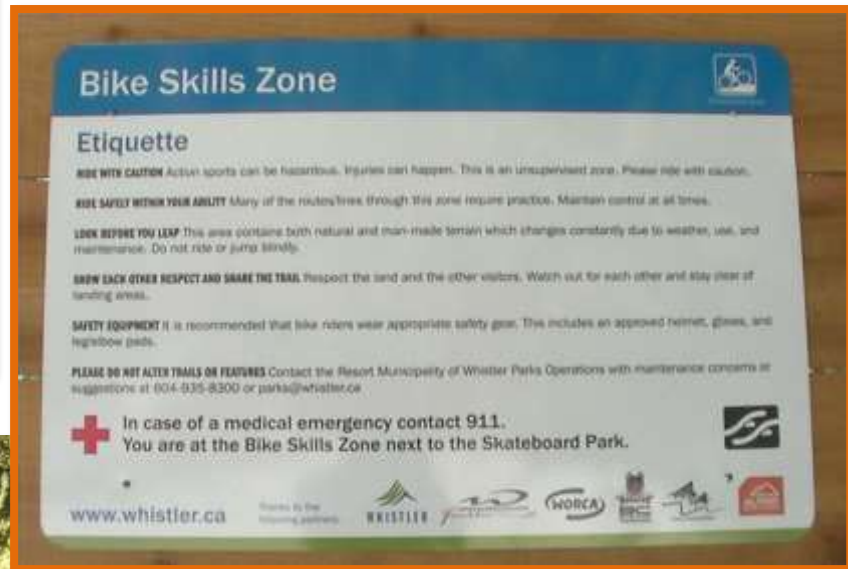
「You Are In BEAR Country!」である。ブラックベアと出くわすことあるよ。ここは、クマの居住区だから、人間は次のことを守って自然を楽しんでね!! と呼びかける看板だ。ウィスラーから20km ほど離れた山中、チャカムス湖へのルート上に立っている。

下のシューズにつけた鈴は、クマ除けの鈴ではない。クマにその地をシェアさせてもらう為に、クマに人間の存在を知らせるための鈴。これは必須アイテムだ。クマの生活を脅かさないように。結局、残念なことに!? クマと出会うことは無かった。





←ウィスラー全域のバイクトレール（オートバイではなく、MTB 向け）の難易度を示すサインの説明。自分の実力を知った上で、コースを楽しむよう呼びかけている。Easy ・ More Difficult ・ Most Difficult ・ Expert Unlimited と段階別コース分けしてあることを示す。Unlimited 無制限レベルという挑戦的な障害物を完備している曲芸に近いコースも存在する。実際に各ルートの前に、この模様のサインがあり、自分のレベルに合わせてコースを選択できるのだ。



←↑ウィスラーの街と森の境界には、いくつかバイクスキルゾーンと呼ばれる、自転車スキル向上トレーニング公園的なものが存在する。これが、大人でも結構楽しい。一歩間違えば怪我をしまいそうな難しすぎるジャンプがあるわけではない。親子連れで楽しめる、一本橋やウェーブのラダーが作られている。上の利用上のエチケットを伝える看板には、自己責任や装備について、そして、シェアザトレールの基本が記してある。子どものころから、親子で利用上のマナーを学んでいける施設がある。町の公園といった感じで、無料である。



Sky to Trail の一部。バンクーバーまで 125km を舗装路と未舗装路でつながる予定のルート。看板も的確で安心走行できる。



森の中のトレールは、ダイナミックな倒木も多い。木に吸い込まれそうな大木である。

←有料のダウンヒル施設「MTB バイクパーク」では、予約すればインストラクターと共に、ゴンドラ利用で2時間ほどダウンヒルを楽しめる。マイペースに楽しむトレール走行とは異なり、まずはインストラクターに教えてもらい、ダウンヒルコースに慣れるのは安全に楽しむ秘訣だ。

→
車いすの方用のダウンヒルマシンを撮影させてもらった。様々な人々が、豊かにコースをシェア出来る土壌がある。



毎年8月初旬には、全世界からMTBのフリースタイルTOPライダーが集まり、このバイクパークで「クランクワークス」が開催される。究極のジャンプコンテストである。夏はMTBバイク一色となるスキー場施設の、ライダーに対するホスピタリティーの高さには驚かされる。バイクショップや本格的なMTBのレンタルショップも多く、快適にバイクライフをおくることが出来る。



ホテルマンから、ホテルのフロントの前を通過して、MTBを倉庫にしまっただけ！と言われ、少々ホコリだらけのMTBを恐る恐るホテルへと入れる。フロントの裏の倉庫には、似たようなMTBが沢山保管してあった。MTBシーズンなのである。



行きは、バンクーバーからバスで2時間30分であった。帰りは、夏の間のみの運行される列車「ロッキーマウンテン鉄道」でバンクーバーへ3時間30分ほどかけて戻る。都市から近いので、最高のアウトドアエリアである。